

二ッポン

ドクター和の 臨終 図卷



長尾和宏（ながお・かずひろ） 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図卷』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

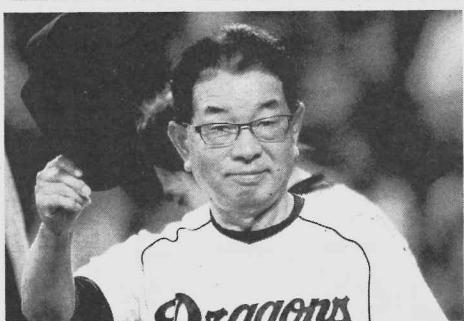
監督として、長嶋ジャイアンツと優勝を争い続けた高木守道さ

んが、1月17日に亡くなりました。享年78歳。死因は急性心不全とのこと。先の板東さんのラジオ番組に亡くなる5日前に出演され、いつもと変わらぬ様子だ

高木守道

元中日監督

(140)



「元気なうちでよかったです」という顔をするんだなあ」という顔をするんだなあ」
親友であった板東英二さん(79)が、ご自身のラジオ番組でこのように追悼されていました。なんと友情に満ちた愛あるコメントだらうかと、しみじみとしてしまいました。

いつもと変わらぬ「元気なうちで」
74年には巨人の9連覇を制し、20年ぶりに中日を優勝に導いた立役者。そして90年代には2代目M'ラゴンズ、19

つたということですから、突然死だったのでしよう。板東さんのコメントにある、「元気なうちでよかったです」とは、なんとも不思議な言い回しですが、町医者として、同じようを感じる場面が時々あります。

特に冬場は外来通院中の患者さんが自宅で亡くなつて発見されることが増えます。クリニックの診察券を見つけた警察から電話があると死体検案に駆けつけます。

布団の中でただ眠っているような穏やかな顔を見て、「ああ、この人は、ご自身が死んだことにまだ気が付いてないなあ」と思いながら、手を合わせます。いわゆる突然死に周囲は驚き、すぐには受け止められません。しかしある日突然、ふと消えるように命が途絶える高木さんのような逝き方を、理想的と考える高齢者は少なくありません。ピンピンコロリと形容す

る人もいます。しかし人によっては、死への心構えが一切なく旅立つのはちょっとねえ…と思ふ人もいるでしょう。

急性心不全は、夏よりも冬に多いことがわかっています。血压は季節によって変動します。寒い季節は、体温の発散を防ぐために血管が収縮し血压が上昇します。さらに忘年会や新年会でお酒を呑む機会が増えると免疫力も下がり、暴飲暴食により自律神経の働きも低下します。これらは心臓突然死のリスクになります。

高血圧や糖尿病を指摘されている人はこの季節、どうか寒さ対策をお願いします。特に入浴時には脱衣場と浴室の温度差を意識して、高温や長湯を避けるなど心臓に優しい生活を心がけてください。

巨人に敗れても、決して負け惜しみを言わない謙虚な方だった印象があります。死に際もさりげなく…ダンディーなラゴンでした。